

国連アジア極東犯罪防止研修所第152回国際研修に参加して

東京地方裁判所裁判官 肥田 薫

私は、平成24年8月23日から同年9月27日までの間に実施されました、国連アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI）の第152回国際研修に、研修生として参加させていただきました。

本研修では、海外の専門家の方々による講義や国内の施設見学等の様々な企画を通じて法曹としての知見を広めることができるとともに、諸外国からの研修生の方々をはじめとする様々な人々と充実したコミュニケーションをとることができ、大変貴重な得難い経験をさせていただきました。有意義な講義等で見聞を広めるきっかけを与えてくださった講師の方々や見学先の方々、快適な研修体制の維持に心を砕いてくださったUNAFEIの関係者の方々、そして更に有意義な意見交換や日々の交流を通じて親しくしてくださった研修生の方々など、本研修でお世話になりましたすべての皆様に、深く感謝し、心より御礼申し上げます。

本研修は、アフリカ、アジア、太平洋及び中央アメリカ等の刑事司法関係者が集まり、主要課題である「人身取引—予防、訴追、被害者保護及び国際協力の促進」について検討することにより、諸国における犯罪の防止及び刑事司法の充実・発展に寄与することを目的としたものです。そして、人身取引対策に関して、その現状及び問題点を整理し、その改善を図る方策について理解を深めるとともに、各自が有する経験や専門知識を参加者間において共有し、各国における実務改善に関する情報交換を促進するため、刑事司法実務家による国際的なネットワークを構築する

ことも期待されています。

グループワークでは、研修生たちが、自国の刑事司法制度や実務の運用についての知識や経験を情報交換するとともに、人身取引対策に関する今後の具体的な課題や取組み等について活発に議論を交わし、有意義な提言をまとめることができました。英語による論文発表や質疑応答・意見交換は、私にとって初めての経験であり、大変ためになりました。また、国ごとに制度や実情が異なる中で、他の研修生の方々が指摘した様々な意見に目を見開かされる思いでしたし、こちらにない発想に気付かされて感銘を受け、大変勉強になりました。

私は、これまで海外経験が全くありませんでしたので、諸外国の研修生の方々と
の交流は、とても素晴らしいものでした。日々の生活や休日の観光等で一緒に楽しく
過ごした時間は、かけがえのない思い出です。言語や文化の違いはあっても、各
国の研修生の方々の、人間的な温かさ、思いやりの心が伝わってきて、いつも感謝
していました。何人かとは生涯の友と呼べる程親しくなり、研修の最終日は離れ難
い思いで一杯でした。帰国した大切な友人である皆様の、本国でのご活躍とご健勝
を願ってやみません。

最後に、日本の短歌で、感謝の気持ちを贈りたいと思います。

過ぎし日の 至福の時間は 鮮やかに

未来を照らす かがり火となり